

## さいたま商工会議所 中小企業景況調査報告書（要約版）

【2020年1-3月期/さいたま市域】

さいたま商工会議所

## 《調査結果のポイント》

## 先行きの不透明感増し、景況感が急速に悪化

- ・ 全産業の業況判断D Iはマイナス幅が拡大した。(▲11.8→▲30.5)
  - ・ 全産業の売上額D Iはマイナス幅が大幅に拡大した。(▲11.8→▲35.9)
  - ・ 全産業の経常利益D Iはマイナス幅が大幅に拡大した。(▲14.3→▲36.7)
- (1) 全産業の業況判断D Iは▲30.5（前期差▲18.7ポイント）となり、マイナス幅が拡大した。  
産業別では、製造業は▲31.3（前期差▲15.9ポイント）でマイナス幅が拡大し、非製造業は▲30.4（前期差▲19.1ポイント）でマイナス幅が拡大した。  
来期（2020年4-6月期）の全産業予想業況判断D Iは▲28.1（前期差▲13.0ポイント）でマイナス幅が拡大の見通しである。
  - (2) 全産業の売上額D Iは▲35.9（前期差▲24.1ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大した。産業別では、製造業は▲50.0（前期差▲73.1ポイント）でマイナス幅に転じ、非製造業は▲39.7（前期差▲16.2ポイント）でマイナス幅が拡大した。
  - (3) 全産業の経常利益D Iは▲36.7（前期差▲22.4ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大した。産業別では、製造業は▲50.0（前期差▲42.3ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大し、非製造業は▲51.8（前期差▲29.8ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大した。
  - (4) 全産業の原材料仕入単価D Iは26.6（前期差▲7.0ポイント）でプラス幅が縮小した。産業別では、製造業は37.5（前期差▲24.0ポイント）でプラス幅が大幅に縮小し、非製造業は32.1（前期差▲5.9ポイント）でプラス幅が縮小した。
  - (5) 全産業の資金繰りD Iは▲14.1（前期差+0.2ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。
  - (6) 今期設備投資を実施した企業割合は全産業では19.5%（前期差▲4.0%）と減少した。来期設備投資を計画している企業の割合は26.9%と今期実績から増加している。
  - (7) 全産業の従業員数過不足D Iは▲19.5（前期差+2.3ポイント）で「不足」感がやや縮小した。産業別では、製造業は▲18.8（前期差▲3.4ポイント）で「不足」感が拡大した。非製造業は▲23.6（前期差▲2.6ポイント）で「不足」感がやや拡大した。

(注1) D Iとは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

## [調査要領]

本調査は、さいたま商工会議所管内の景気動向を把握するために、会員事業所の協力を通して四半期毎の景況をアンケートの方法によって調査し、集計値をD I（注）で示したものである。

- (1) 調査対象期間 2020年1月1日～3月31日
- (2) 調査時期 2020年3月1日～3月31日
- (3) 回収状況 さいたま商工会議所の会員事業所で調査対象数230のうち有効回答数128（有効回答率55.7%）

# 1. 業況判断D I (「好転」－「悪化」前期比)

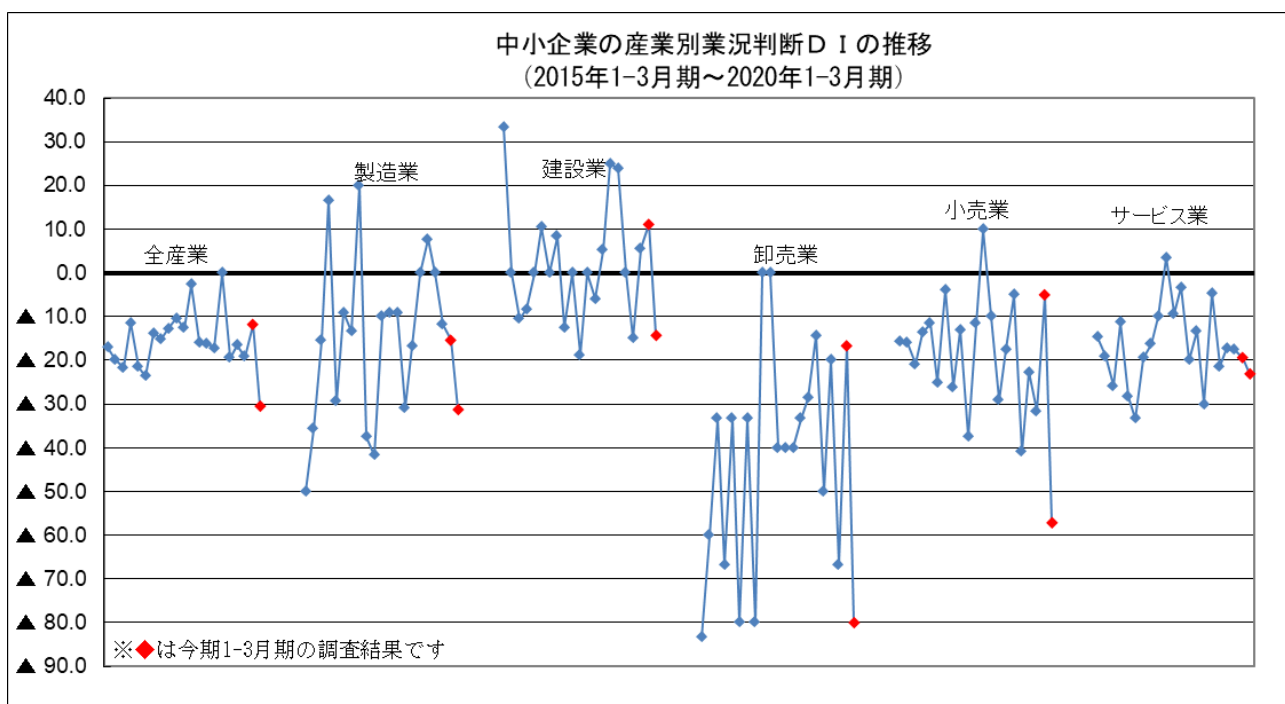
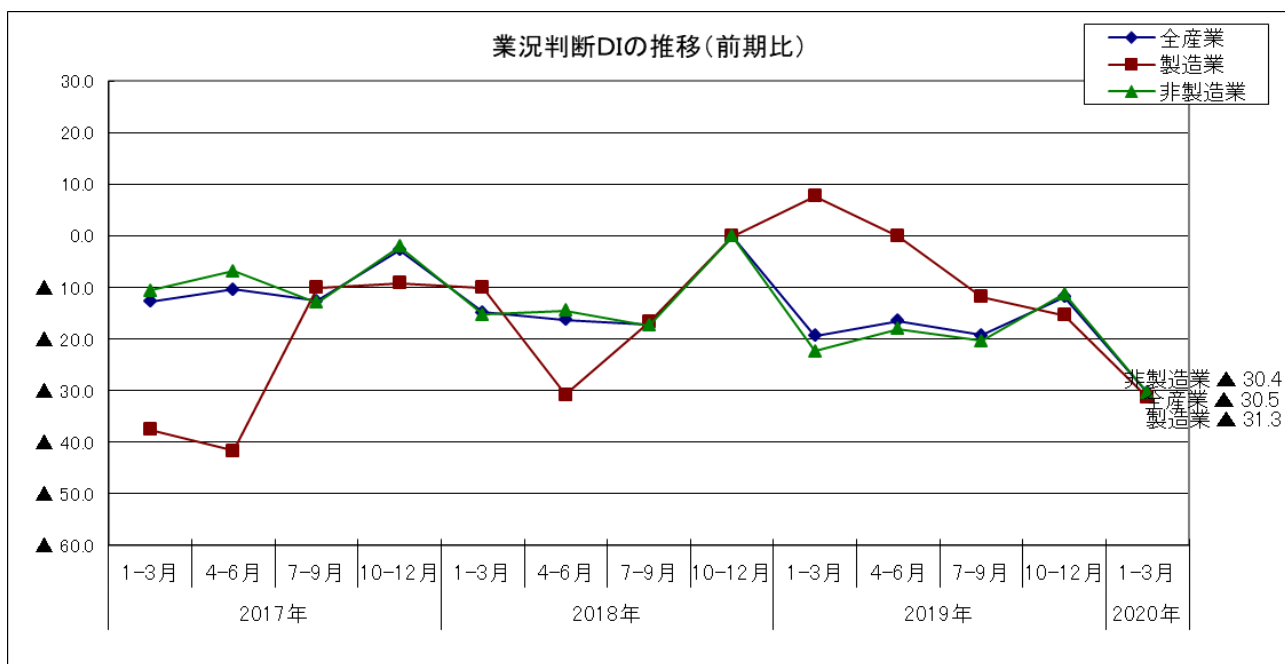
## (1) 全産業

2020年1-3月期の全産業の業況判断D Iは▲30.5(前期差▲18.7ポイント)となり、マイナス幅が拡大した。

来期の全産業予想業況判断D Iは▲28.1(前期差▲13.0ポイント)でマイナス幅が拡大の見通しである。

## (2) 産業別

産業別では、製造業の業況判断D Iは▲31.3(前期差▲15.9ポイント)、非製造業(建設業、卸売業、小売業及びサービス業)は▲30.4(前期差▲19.1ポイント)でともにマイナス幅が拡大した。業種別では、建設業は▲14.3(前期差▲25.4ポイント)でマイナス幅へ転じた。卸売業は▲80.0(前期差▲63.3ポイント)、小売業は▲57.1(前期差▲52.1ポイント)でマイナス幅が大幅に拡大し、サービス業は▲23.1(前期差▲3.7ポイント)でマイナス幅が拡大した。



## 2. 売上額D I（「増加」－「減少」前期比）

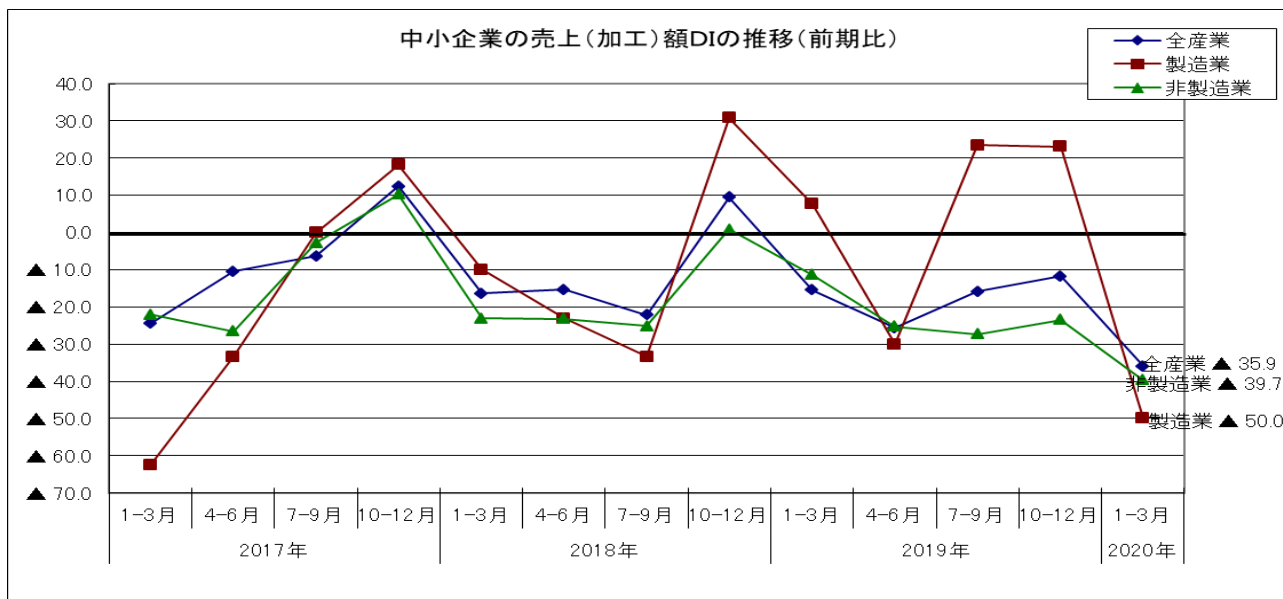
### (1) 全産業

2020年1-3月期の全産業の売上（加工）額D Iは▲35.9（前期差▲24.1ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大した。

### (2) 産業別

産業別では、製造業は▲50.0（前期差▲73.1ポイント）でマイナス幅に転じ、非製造業は▲39.7（前期差▲16.2ポイント）でマイナス幅が拡大した。

業種別にみると、建設業は▲9.5（前期差▲15.1ポイント）でマイナス幅に転じ、卸売業は▲60.0（前期差+6.7ポイント）でマイナス幅が縮小し、小売業は▲57.1（前期差▲42.1ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大し、サービス業は▲32.3（前期差▲14.6ポイント）でマイナス幅が拡大した。



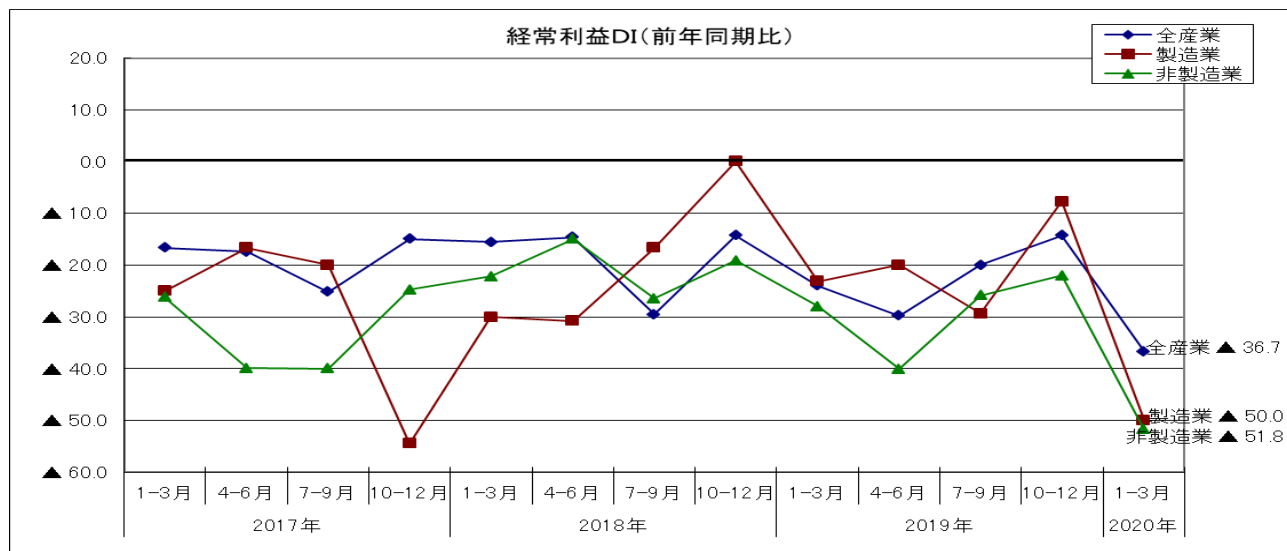
## 3. 経常利益D I（「好転」－「悪化」前年同期比）

### (1) 全産業

2020年1-3月期の全産業の経常利益D Iは▲36.7（前期差▲22.4ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大した。

### (2) 産業別

産業別では、製造業は▲50.0（前期差▲42.3ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大し、非製造業も▲51.8（前期差▲29.8ポイント）でマイナス幅が大幅に拡大した。



## 4. 原材料仕入単価D I（「上昇」－「低下」前年同期比）

原材料仕入単価D Iは、全産業では26.6（前期差▲7.0ポイント）でプラス幅が縮小した。業種別では、製造業は37.5（前期差▲24.0ポイント）でプラス幅が大幅に縮小、建設業は52.4（前期差+8.0ポイント）でプラス幅が拡大、卸売業は40.0（前期差▲10.0ポイント）、小売業は19.0（前期差▲16.0ポイント）、サービス業は16.9（前期差▲5.7ポイント）でプラス幅が縮小した。

## 5. 在庫水準D I（「過剰」－「不足」今期の水準）

在庫水準D I（「過剰」－「不足」今期の水準）は全産業では▲11.9（前期差▲1.6ポイント）で「不足」感がやや拡大した。業種別では、製造業は▲6.3（前期差▲6.3ポイント）で「不足」感に転じ、卸売業は▲20.0（前期差▲3.3ポイント）で「不足」感が拡大し、小売業は▲14.3（前期差+0.7ポイント）で「不足」感がやや縮小した。

## 6. 資金繰りD I（「好転」－「悪化」前期比）

全産業の資金繰りD Iは▲14.1（前期差+0.2ポイント）でマイナス幅がやや縮小した。産業別では、製造業は▲25.0（前期差▲17.3ポイント）でマイナス幅が拡大し、非製造業も▲19.5（前期差▲3.9ポイント）でマイナス幅が拡大した。

## 7. 借入難易度D I（「容易」－「困難」前期比）

全産業の長期資金借入難易度D Iは▲0.8（前期差▲2.5ポイント）で「困難」へ転じた。また、短期資金借入難易度D Iは2.3（前期差+0.6ポイント）で「容易」幅がやや拡大した。

産業別にみると、製造業では長期資金は「容易」幅が縮小し、短期資金は「容易」幅がやや縮小した。非製造業では長期資金は「困難」幅が拡大し、短期資金も「困難」幅が拡大した。

## 8. 設備投資動向

今期設備投資を実施した企業の割合は全産業では19.5%（前期差▲4.0%）と減少している。

業種別では、建設業は25.0%（前期差▲13.5%）、建設業は23.8%（前期差▲4.0%）で減少、卸売業は20.0%（前期差▲30.0%）で大幅に減少し、小売業は19.0%（前期差+9.0%）で増加し、サービス業は16.9%（前期差▲4.1%）で減少した。

来期設備投資を計画している企業の割合は全産業では26.9%と今期の実績値から増加の見通しであり、前年同期の実績値（2019年1-3月期、15.5%）を上回っている。

## 9. 従業員数過不足D I（「過剰」－「不足」今期の水準）

従業員数過不足D Iは全産業では▲19.5（前期差+2.3ポイント）で「不足」感がやや縮小した。

産業別では、製造業は▲18.8（前期差▲3.4ポイント）で「不足」感が拡大した。非製造業は▲23.6（前期差▲2.6ポイント）と「不足」感がやや拡大した。業種別では、建設業は▲52.4（前期差▲19.1ポイント）、卸売業は▲20.0（前期差▲3.3ポイント）で「不足」感が拡大し、小売業は▲9.5（前期差+0.5ポイント）、サービス業は▲12.3（前期差+11.9ポイント）で「不足」感が縮小した。

## 10. 経営上の問題点

製造業では「需要の停滞」、建設業では「従業員の確保難」、卸売業では「人件費以外の経費の増加」「仕入単価の上昇」小売業では「需要の停滞」、サービス業では「利用者ニーズの変化への対応」が第1位になっている。

第2位には、製造業では「製品ニーズの変化への対応」、建設業では「官公需要の停滞」、小売業では「消費者ニーズの変化への対応」、サービス業では「人件費の増加」がそれぞれ挙げられている。